

第百十五回 楽々俳句会(ちば)

令和七年一月九日(木) 晴

会場 活動センター 十時集合 投句三句

久武 1 能登よいま七草がゆの味を継ぐ

1 3 七草や刻むリズムの割烹着

2 言い知れぬ祖母の七草追憶へ

武久 1 金毘羅の千の階きざし初詣

久 2 3 七種や吹きてはるかな野の香

久 2 1 年老いて七草もレトルトで

武 1 1 独り寝のさめて深夜の隙間風

武 1 1 初硯隸書で「新」と筆運ぶ

久 1 2 七草の粥振る舞ひぬ二の鳥居

久 3 七草や一つ欠けたる今朝の膳

久 1 無人駅伝言板に冬帽子

久 孫帰り三つ日遅れの寝正月

久 お元日句帳に誓う週一句

1 3 筆ペンの掠れて書けぬ寒の入り

1 3 七種の揃わぬ数の菜をきざみ

1 初春の風をまといて吾子来たる

4 投げ入れの赤の際に立つ淑気かな

3 七草を嬰兒のくちえ箸そつと

2 七草や玉簪たまかんざしで助手せきへ

1 観音の笑顔迎える初詣

1 一月一日静かな夜の明けにけり

1 麒麟から河馬へ重機の三が日

1 踏み出せば道開けゆく初句会

1 甘さ出る岩塩ふりし七日粥

1 一札の一つが深くなりゆく賀状かな

一札の一つが深く賀状かな

育子

成子

信雄

恵美子

洋子

静代

弘子

豊隆

恵美子

粹歩

粹歩

静代

成子

成子

宣子

宣子

武彦

信雄

信雄

粹歩

宣子

久登

育子

久登

洋子

1 すすしろのぶりの煮込みに酒進む 利太郎

1 ことごと七草粥の朝餉炊く 弘子

1 七草や白と緑の鮮やかさ 豊隆

白緑七草粥の鮮やかさ

1 寒雀羽ふくらませ餌あさる 弘子

初雀チュンと鳴いて大空に

チュンチュンと庇に並ぶ初雀

七草やどこかへ何を届けるか

入口の七草パック二段かな

店先の七種パックまず買ひぬ

七草や体重計に乗つてみる

七草や体重計を疑わず

一葉の手の切れそうなお年玉

お年玉一葉の札デビューかな

香閣の煙手足にへ初詣

鳴の声鼠の宿る谷津干潟

初声や鼠の宿る谷津干潟

せりたいて家族皆なで健康日

歯固の前歯の入れ歯噛み合はす

参加者 成子・育子・静代・恵美子・宣子・洋子・弘子

豊隆・粹歩・利太郎・武彦・久登

欠席 園子・今日子・ミチ子

二〇二四年度高得点者

粹歩二八点 宣子二四点 武彦二三点 育子二二点 成子二〇点

次回予定

二月六日(木)

三月六日(木)

四月十日(木)

兼題「節分」

兼題「猫の恋」

兼題「沈丁花」

十時活動センター

十時活動センター

十時活動センター